あったかい風をみんなで吹かそう

いじめ・不登校総合対策センター

いじめ・不登校
リーフレット
VOL.5

教職員のための
不登校支援リーフレット

鳥取県教育委員会事務局
いじめ・不登校総合対策センター

令和3年3月

未然防止・早期発見による不登校支援

キーワードになるのは２つ！

魅力ある学校づくり　　児童生徒理解

魅力ある学校づくり

「あしたも、笑顔で」（※）P.4 に掲載

①わかる授業・魅力ある授業づくり

◇安心し、落ち着いて学習に取り組める時間と環境を整えましょう。
◇わかる楽しさに加えて、挑戦したらできたと実感できる楽しさを取り入れましょう。
◇授業のめあてや教材をひと工夫し、期待感を高めましょう。
◇地道な基礎・基本の学習によって、児童生徒の達成感を高めましょう。

②安全・安心な居場所づくり

◇他者から大切にしてもらったということを実感できる活動を仕組んでいきましょう。
◇学級・学校組織への帰属感が高められるような活動を取り入れましょう。

③人間関係づくり・社会性の育成

◇「時間を守る」など、児童生徒と決めたことは教職員自らが率先して行いましょう。
◇児童生徒がお互いを理解し合うような時間を設定しましょう。
◇どの児童生徒も無理なく自己表現できる機会を設定しましょう。
◇学級の生活づくりは、児童生徒が主役です。話し合う機会を大切にしましょう。

④児童生徒への関わり方のポイント

④については「あしたも、笑顔で」のほかにも県教育委員会発行の「ケース会議マニュアル」「鳥取県版アセスメントシート」に詳しく載せています。

【自己肯定感が低下しているタイプへの支援】
小さなことでも続けて頑張っていることを褒める。

【不注意や多動･衝動性が多いタイプへの支援】
授業のきまりを明確にしたり、マナーなど対人スキルを教えたりする。

【情緒不安が強いタイプへの支援】
不安になったときに安心して過ごせる場をあらかじめ準備しておく。

【対人関係やコミュニケーションが苦手なタイプへの支援】
自分の気持ちを言葉で表現できるように、感情や気持ちの言葉を代弁する。

【学習上のつまずきがあるタイプへの支援】
学習の課題の量や時間を調整する。

【集団を避ける･集団が苦手なタイプへの支援】
児童生徒の気持ちを尊重し、無理強いしない。

（※）不登校の理解と児童生徒支援のためのガイドブック「あしたも、笑顔で」
個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援等の充実を図るため、令和２年８月に県が作成。
いじめ・不登校総合対策センターホームページからダウンロードできます。

児童生徒理解

児童生徒理解につながるチェックポイント

チェック

「あしたも、笑顔で」P.１３～１５に掲載

- □ どの児童生徒も公平に認め、ほめ、励ましている。
- □ 教職員自身が「約束したことは守る」等、児童生徒のよいモデルとなるよう行動してる。
- □ 気になる子がいたら、担任一人の視点ではなく、複数の教職員で様子を観察したり、対応を検討したりしている。
- □ 年度途中において、Q-Uアンケートなどの客観的指標を用いたり、同僚教職員からの意見を求めたりしながら、学級の状況把握をするなどして、学級経営を進めている。
- □ 本時のめあて（学習目標）を明確に提示するとともに、それに基づくまとめや振り返り（評価）を行い、一人一人が「分かった」「できた」という達成感を実感できる授業づくりをしている。
- □ 気になる行動の要因を、特別支援教育の観点も踏まえて多面的に把握し、必要に応じて、特別支援学校や関係機関等と連携を図っている。
- □ 保護者の困っている思いを受け止め、児童生徒の成長を伝えることに努めている。
- □ 進級・進学前に児童生徒の特性や必要な支援について情報を引き継ぎ、支援に生かしている。
- □ クラスのルールや生活目標などは、児童生徒にとってわかりやすく、かつ守りやすいものになっている。
- □ 失敗しても認め合い、お互いを励まし合う雰囲気がクラスにある。

「あしたも、笑顔で」P.１３～１５にカテゴリー別に上記を含めた全４０項目を掲載しています。ぜひチェックしてみてください。

ポイント ～「どうしたの？」で始まる生徒指導～

○表出した行動だけを見て、その子のことを判断したり、叱ったりしていませんか？

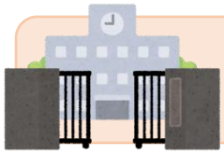
【まず、子どもの思いを聴く】

どのような行動でも必ず理由があるはずです。
まずは、「どうしたの？」から始めてみましょう。
その場で叱ったとしても、必ずフォローをして、子どもの思いを丁寧に聴き、その思いに寄り添うことが大切です。

【思いを聴いたら共有を】

些細なことでも「あれ？おかしいな」と感じたときは、教職員で情報共有をし、児童生徒から話を聴きます。しっかり思いを聴き、それを再度、教職員全体で共有することが、児童生徒理解につながります。

はぁ・・・
わかってくれていない



県内の小学校の取組から

～A 小学校～ 「当たり前のことを継続して丁寧に行う」

〇情報共有「全職員が、全児童のことを知る」

・毎週１回、終礼の時に各学年から気になる児童の報告をすることで、学校全体で気になる児童の見守りができる。担任が不在の時も丁寧に保護者対応ができる。

・あらゆる情報は教育相談担当に集まり、そこで一元化される。些細なことでも管理職とのミニケース会議（井戸端スタイル）が日常的に行われ、スムーズな対応につながっている。

〇保護者との信頼関係の構築

・教職員が行き渋りの児童を学校に送ってきた保護者と立ち話をして、児童の状況や、保護者の困り感などを聴くなど、日頃から保護者との関係づくりを丁寧にしている。

〇「あったかハート」（いいとこみつけ）

・児童相互の「いいとこみつけ」を各学年ごと順番に廊下に貼りだしている。また、毎週木曜日昼休憩には放送で、先生から児童に向けて「いいとこみつけ」を伝えている。

【教育相談担当が保護者との関わりで大事にしていること】
「保護者の方が一生懸命子育てをしておられることに対して、尊敬の心をもちながら関わっています」
「家庭の教育方針を尊重し、学校の支援方針とのすり合わせを丁寧にしています」

～B 小学校～ 「未然防止の視点を大切にする」

〇気づいたら情報共有する

・スクリーニング会議（管理職、教育相談担当、生徒指導主事、特別支援担当、養護教諭、担任）を学期に１～２回実施。年間３日以上欠席や遅刻の多い児童については支援会議を実施。

・教育相談担当教員が毎朝、下足場を確認。来ていない児童をすぐに情報共有。

・「担任一人で抱えることはまず無理」という共通認識も教職員間でもっている。
⇒教職員同士でそれぞれの苦しさ楽しさを共有。職員室でのコミュニケーションの活性化を促し、全員で一人の子に関わるという意識。みんなが、その子のエピソードを知っている。

・同じ「欠席３日」でも、病気か？それ以外の理由か？といった話題も教員間で意見交換。

・服装の乱れ、汚れなどに気づいた段階で校内で情報共有し、市町村福祉部局及び児童相談所と連携。

〇特別活動の取組「本音で語り合うこと、個人個人が持ち味を発揮できることを大事に」

・集会等では児童に力を発揮することのできる場を与え、内容は児童たちに考えさせる。任せる時間を作り、教員からのトップダウンは極力やらない。当然、失敗もあるが、失敗を生かす場もつくる。「信じる」ことが大切。

・活動の風景を級外の教職員が撮影して踊り場等に掲示。→教員と児童で実践を共有。

～C 小学校～ 「同僚性を高め、学校全体で支援する」

〇教職員の同僚性を高める

・月１回、ランダムに班を作り（教員４～５名）、テーマを決めず自由に話をしたり、意見交換をする。

・「担任支援会議」の開催⇒困り感のありそうな担任を支援する会議。関係教職員が集まって、悩みや困り感を聴いたり、アドバイスをしたりしている。

・管理職は日ごろから児童や教職員への声かけ、エンパワーメントを心がけている。
⇒上記のような取組から、困ったときには教職員から声が上がりやすくなり、教育相談担当以外の教員からも「この子の支援会議をしてほしい」など提案があり、早期対応ができるようになった。

〇教育相談担当が動ける時間の確保

・持ち時間数を極力減らしている。朝の対応が重要になるため１時間目をすべて空けている。その結果、行き渋りの児童への対応、欠席者の確認、保護者対応、情報の整理などが朝のうちにできる。